

☆☆文庫あれこれ☆☆



◆上のスナップは、文庫の小1トリオ(6月)。5月の<若葉の頃のおはなし会>で、東京からの小3と5歳の語り手兄妹のおはなしを聴いて、私たちだってできるのよ、と、国語のテキストをご披露してくれました。◆10月から小さい人たちに負けずに、おはなしの勉強会に参加しませんか?◆お仲間たちのおはなしを聴いて、また自ら語って、日頃使っている日本語がこんなに美しかったかしら、と思ったり、改めて物語る自分の声・口調に愛しさをおぼえたりします。そして、聴き手とのピンポンのように通い合う物語の世界を楽しみませんか?◆私はやはり、ラッキー印です。懸念していた文庫一周年の、そして海の日のおはなし会、できちゃいましたもの♥たくさんの方々、聴きにきてくださりありがとうございました。◆文庫で小さい人のおはなし会をやるので、海の日は、大人向けで勝手にプログラムを考えましたが、午前も夕方も聴きにきてくれた小さい人もいて、来年は、み〜んなで楽しめるおはなしをもっと考えます。◆沙羅の樹文庫友の会のお力を借りて、ようやく、蔵書リスト作成のための入力作業を再スタート。◆入力、検索、貸出システムも考案してくださる会員も出現、嬉しいです。◆来年の開館記念日には、こんな本があって、あんな本はまだ、とお答えできる予定です。◆お盆週間の開館はいかがでしたか?(西村)

♥♥これからの催し物予定♥♥

秋の夜長のおはなし会(おとなのための)

★10月20日(土)午後6:30~8:00

しっとり、もの哀しい、不思議な物語で

秋の一夜をお楽しみください。

10月から、

『<楽しんで読み聞かせ・

頑張っておはなし>みんなで勉強会』を

はじめたいと考えています。

挑戦したい人、この指とまれ!

勉強会は、第3日曜日前後の木、金、月、火のいずれかの
午後を予定しています。

関心のある方は、お申し出ください。

一番参加者の多い日に決めたいと思います。

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆9月は、15(土)、16(日)の両日です。

◆文庫の時間は土曜日は午後2時~5時、
日曜日は午前10時~午後3時

◆毎月開館日の日曜には、子どものための
小さなおはなし会があります。

午前10:30~11:00

◆文庫開館日は毎月、第3日曜とその前日
の土曜日の2日です(従って第3土曜日で
なく第2土曜日ということもあります)。

♥会員更新ご協力、
ありがとうございます♥

沙羅の樹文庫だより

No.12

(2007年8月号)

紺碧の空に
白い雲
そして耐え難いほど
暑い陽射しの中で
眼に飛び込む
百日紅
昔からの真夏。
私の原風景

暑い暑い夏の
真っ只中
でも、立秋も過ぎ、
秋はすぐそこ
夏はいつも
胸きゅんの痛みを
残して
駆け去ります
すてきな
思い出を
重ねてください!



7月催し物のご報告

沙羅の樹文庫開館一周年記念おはなし会

7月15日の開館記念の子どもたちのおはなし会は、台風の接近に伴い朝から時折激しい雨が降り、一時は中止になるかなと思われていましたが、10時を過ぎる頃から小雨になり、30分を少し過ぎた時にはお母さんやご両親に連れられ、子ども達が元気よくやって来ました。

東京から来てくださった語りの方が、おはなし会の前に手遊び「えんどうまめ、そらまめ」「ごまだんご」等をして下さいました。

おはなしは「ねずみの大旅行」「だんごどっこいしょ」「やぎとライオン」「3枚のおふだ」でした。

台風の影響で前日からの大雨の為伊豆急電車が止まったり、国道の一部が通行止めになったりした中子ども達が来てくれたので、語りの方達はいつにも増して熱の入ったお話で、特に「やぎとライオン」の時など、体を乗り出して聞き入っていました。(森川 理恵)



(えんどうまめ、そらまめ、の手遊び)

海の日のおはなし会 07.07.15

朝まですごい雨でやるのかしらと心配なお天気でしたが、台風一過で雨もあがり伊豆高原駅外の大楠の木の下には50ほどのいすが並べられていて、はじまる時間にはそれがほとんど埋まるほどの人が集まりました。

15分ほどの休憩をはさんで、7つのおはなしが終わったのは予定通り7時半。最後の「千の風になって」ではみんなでその歌をうたい、すてきなしめくりでした。

わたしの印象に残ったのは、「池と木」というイギリスのおはなしでした。樹齢130年の大木の下で聞いた池と木の友情のお話は、夕方の風に吹かれるさらさらという葉のささやきと共に、きっといつまでも心に残るだろうと思いました。

ここに住んでもう5年になりますが、あまり駅を利用しないからでしょうか、7回目になるおはなし会を初めて知りました。何人が熱心に聞き入るお子さんもいましたが、おとなに楽しいおはなし会でした。語り手の何人かは東京からいらしたとか、たくさんの方々のお力があってのことでしょうが、来年も再来年もずっと続けてほしい企画だと思いました。(中西 景子)



(伊豆高原駅 大きなクスノキの木の下で)

☆☆新刊☆☆紹介☆☆

『川かますの夏』(ユッタ・リヒター著 古川まり訳 主婦の友社 2007.7) 登録ナンバー:2939

“終わるとは思えない夏だった”ではじまり、“何もいつもとかわらなかった。まるでなにごとにもなかったかのように”で終わるドイツの児童文学。でも、ひとりの少女とその幼馴染の兄弟には、過酷な試練の夏でした。ヨーロッパでは、幸運(否受難?)を呼ぶ「川かます」が不気味です。

『4分の1のオレンジ5切れ』(ジョアン・ハリス著 那波かおり訳 角川書店 2007.7) 登録ナンバー:5851

しばらく翻訳ものに飢えていたので、書店でこのタイトルのみで飛びついた本。でも著者はあの『ショコラ』の人でした。この話は、ドイツに近いフランスの片田舎の話ですが、偶然この話も「川かます」ののろい?が全編に大きな影を落としています。第2次世界大戦とその後の数十年あとが時代風景。ストーリーは60代後半のひとりの女の独白でサスペンスを読むように進んでいき、ドキドキハラハラの上に、料理好きには応えられないおいしいようなレシピが出てきます。一読お薦め本です。

『千年の祈り』(イーユン・リー著 篠森ゆり子訳 新潮社 2007.7) 登録ナンバー:5852

英語で生まれ故郷中国を描いているアメリカ在住の若い作家。短編集ですが、テーマも見据える感覚もさすが悠久中国数千年の世界……。日本人とは確実に違うのですが、白人世界とも異なり、なんとなく知っているかな世界。パール・バックの中国から続いている感じ?(古くて恐縮。)静謐で独特な筆致で中国人を伝えてくれます。

『吉原手引草』(松井今朝子著 幻冬舎 2007.3)

今期、直木賞受賞。ある事件を追いかけて、吉原のしきたり、人の考え、様子を紡ぎだす。好きな人は好きかも知れないが、私は今一でした。

ほかにも入っています。

(沙羅の樹)

児童書 120冊余、寄贈いただきました。(東京・広瀬恒子さん) 今回、ノンフィクションもたくさん。文庫にない時期のものが多く嬉しいプレゼントです。ご活用ください。